

## 高等学校 体育（専門学科）

### (1) 改訂の基本的な考え方

スポーツへの多様な関わり方についての理解と実践及び生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身に付けることが重要であると示された。「高度な技能の習得を中心として社会におけるスポーツを牽引していく」ことばかりでなく、体育の見方・考え方を働かせ、「する・みる・支える・知る」などのスポーツへの多様な関わり方を自ら実践することを通して、社会における人々の生涯を通じたスポーツの諸課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けてともに関わろうとする意味が強調された。また、スポーツを通じた共生社会の実現に寄与する視点も重視された。

### (2) 教科の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) スポーツの推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与することを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

※「体育の見方・考え方」を働かせるとは

生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」である。体育科においては、こうした見方・考え方に加え、スポーツの推進及び発展に寄与することにつながる見方・考え方を働かせることも示している。

これは、見方・考え方を働かせる学習過程を工夫することにより、体育科で育成を目指す資質・能力がより豊かになり、体育科の目標である、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力の育成につなげようとするものである。

### (3) 科目の構成

（★印は原則必修科目を表す。（ ）内数字は標準単位数を表す。）

現 行	改 訂	備 考
スポーツ概論（★）	（3～6）	左に同じ
スポーツⅠ （採点競技及び測定競技）	（3～18）	左に同じ
スポーツⅡ（球技）	（3～18）	左に同じ
スポーツⅢ （武道及び諸外国の対人的競技投）	（3～18）	左に同じ
スポーツⅣ（ダンス）	（3～18）	左に同じ
スポーツⅤ（野外活動）（★）	（3～6）	スポーツⅤ（野外の運動） 名称変更
スポーツⅥ（体づくり運動）（★）	（3～6）	左に同じ
スポーツ総合演習（★）	（3～9）	左に同じ

(4) 主な科目のねらい・内容等

科 目	ねらい・内容等
スポーツ概論 (共通必修履修科目)	・スポーツについて、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた総合的な理解を通して、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力の育成をねらいとした科目
スポーツⅠ (採点競技及び測定競技)	<p>【各科目のねらい・内容は以下のとおりである。】</p> <p>各科目の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。</p> <p>各科目における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>各科目の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。</p>
スポーツⅡ (球技)	
スポーツⅢ (武道及び諸外国の対人的競技等)	
スポーツⅣ (ダンス)	
スポーツⅤ (野外の運動)	
スポーツⅥ (体づくり運動)	
スポーツ総合演習 (共通必修履修科目)	・スポーツについての課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた探究的な学習活動を通して、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力の育成をねらいとした科目

(5) 教育課程編成上の留意点及び指導計画作成上の配慮事項等について

Q 専門教科「体育」設定の具体的なねらいは何か。

第1は、専門学科「体育」の各科目の学習を行うことによって、体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、健やかな心身の育成を図るとともに、生涯を通してスポーツを継続する資質・能力を高め、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うこと。

第2は、選択した科目の学習や課題研究等によって、「する、みる、支える、知る」などのスポーツへの多様な関わり方を自ら実践するとともに、我が国におけるスポーツの推進及び発展の担い手を育成することである。

Q 体育に関する学科における指導計画の作成に当たって配慮すべきことは何か。

A 各年次において下図の条件を満たすこと。

☆すべての生徒が履修

- ・スポーツ概論 ・スポーツⅥ
- ・スポーツⅤ ・スポーツ総合演習

☆1科目以上の選択履修

- ・スポーツⅠ ・スポーツⅢ
- ・スポーツⅡ ・スポーツⅣ